

## シラバス

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	1年次 4～11月		
科目名	病理学	単位数	1単位	時間数	30時限
担当講師	医師	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分 100点

◆学習目標

疾病の原因、発生のしくみ、経過、転帰の一連の過程を理解する。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	病理学の概要と病因論	板書及び参考スライドの提示	医療における病理学の位置づけを学ぶとともに疾病の発生機序についての総論を理解する
	2	先天性疾患と遺伝病		遺伝子の障害・染色体の異常による疾病発生の基礎と奇形形成を学ぶ
	3	細胞・組織障害		細胞の構造とその傷害、萎縮、変性、細胞死について学び老化の概念を理解する
	4	物質代謝障害		糖質、蛋白質、核酸、脂質、ミネラル、色素代謝とその障害について理解する
	5	修復と再生		細胞分裂と増生、再生、肥大、化生、肉芽、創傷治癒について学ぶと共に iPS 細胞の基礎理論を学ぶ
	6	循環障害		循環障害とショック、高血圧について学ぶ
	7	炎症と感染症		炎症の定義や原因、分類などについて、及び感染症について総論的内容を理解する
	8	免疫と免疫異常		免疫の定義と免疫異常、特にアレルギー、自己免疫疾患、免疫不全、及び移植と拒絶反応について学ぶ
	9, 10, 11, 12	腫瘍(1), (2), (3), (4)		(1) 腫瘍の定義や分類 (2) 腫瘍の進展様式とその記載法 (3) 腫瘍の原因 (4) 診断学と治療、統計などを理解する
	13, 14	病理検査室実習		病理切り出し室にて手術検体及び剖検検体の見学実習
15	筆記試験			

◆教科書

医療系学生のための病理学 第4版(講談社)

◆参考文献

症状を知り、病気を探る(照林社)

## シラバス

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	1年次 5月～9月		
科目名	感染症学（微生物学）	単位数	1単位 (3単元あわせて)	時間数	30 時限 (3 単元あわせて)
担当講師	医師・検査技師・認定看護師	講義時限	28 時限	試験時間・配点	90分 100点

### ◆学習目標

【微生物学】病原微生物について看護師としての基礎知識を習得し、主な病原微生物による感染症の特徴を学習する。

#### 【免疫学・感染症の基礎知識】

1. 感染症の一般概念と免疫機構の基本を理解し、各論への足がかりをつける。
2. HIV 感染の病態的社会的理解を得る。

#### 【感染予防】

1. 感染の基礎知識を理解し、感染防止対策の実際を学ぶ。
2. 医療従事者として職業感染の知識と予防方法について理解する。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	<b>【微生物学】</b> I. 微生物へのイントロダクション(Lecture1・8より) 1. 微生物と人間のかかわりあい 2. 微生物を学ぶ意義 3. 微生物学の範囲 4. 医学微生物学の歴史 5. 細菌・ウイルス・真菌・原虫の検査法	講義・PP	
	2	II. 微生物のアウトライン(Lecture2より) 1. 細菌・ウイルス・真菌・原虫のアウトライン 2. 各微生物の特徴 3. 細菌検査の検体採取時における基本事項 4. 講義内容を確認問題により復習	講義・PP	
	3	III. 細菌学各論(Lecture9より) ・グラム陽性球菌・グラム陽性(有、無)芽胞桿菌 ・放線菌関連菌・グラム陰性球菌 ・グラム陰性(好気性、通生嫌気性、嫌気性)桿菌 ・らせん菌・スピロヘータ・マイコプラズマ ・リケッチア・クラミジア	講義・PP	
	4	IV. ウイルス学各論(Lecture10より) ・ポックスウイルス～肝炎ウイルス ・スローウイルス感染症およびプリオン病 ・腫瘍ウイルス	講義・PP	
	5	V. 真菌学及び原虫各論・寄生虫学(Lecture11・12より) ・真菌学各論(カンジダ～) ・原虫学各論(赤痢アメーバ～) ・寄生虫学 原虫と寄生虫の違いや各寄生虫の簡単な紹介 ・講義内容を確認問題により復習	講義・PP	
	6	<b>【免疫学・感染症の基礎知識】</b> 感染症の概念と一般論 感染症診断の基礎 抗菌薬の使い方	講義(講義ノート)	

7	免疫学概念 感染防止機構と各免疫担当細胞の役割 免疫不全とその疾患 ワクチンとは 定期接種と任意接種	講義(講義ノート)	
8	HIV・AIDS の疾患の理解と世界の趨勢 感染予防対策	講義(パワーポイント)	
9	【感染予防】 感染の基礎知識 ・感染とは ・医療関連感染とは ・感染症の基礎知識 ・感染成立のしくみ ・感染防止技術の基本	講義・DVD 視聴	感染の基礎知識を理解する
10	・標準予防策とは ・経路別感染予防策とは	講義	標準予防策、経路別感染予防策を理解する
11	日常ケアと感染防止対策の実際 ・血流感染対策 ・尿路感染対策 ・人工呼吸器関連肺炎対策 ・手術部位感染対策	講義	医療器具や患者の状態が感染源になりうることを理解する
12	職業感染対策 ・針刺し防止対策 ・流行性ウイルス疾患予防 麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘 ・結核予防対策	講義	職業感染の基礎知識と感染対策について理解する
13	洗浄・消毒・滅菌 廃棄物の取り扱い	講義	洗浄・消毒・滅菌について学び、洗浄の重要性が理解できる 廃棄物の取り扱いが理解できる
14	手指衛生・個人防護具の着脱の実際	DVD 視聴・演習	正しい手指衛生・個人防護具の着脱が理解でき実施できる
15	感染症学の全単元終了後試験		

◆教科書

ビジュアル微生物学 第2版 (ヌーヴェルヒロカワ)

【免疫学・感染症の基礎知識】

専門分野Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 成人看護学⑪ (医学書院)

【感染予防】系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 感染防止の技術

病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症

◆参考文献

【感染予防】

院内感染予防必携ハンドブック 第2版

環境感染学会 教育ツール Ver. 3

ナーシング・プロフェッション・シリーズ 感染管理の実践

◆成績評価の方法 筆記試験

## シラバス

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	1年次 9月～2月		
科目名	薬理学	単位数	1単位	時間数	30時間
担当講師	薬剤師	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分 100分

◆学習目標

薬の作用や副作用など薬理学の基礎を学ぶと共に、看護師国家試験の薬物療法の対策に重点を置く。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授業 計 画	1	ガイダンス・薬物療法と看護の役割・薬理学とは	・教科書に従い理解を深めるため、パワーポイントを用いた講義形式を実施する。	薬物療法と看護との関わりと薬理学を理解する。
	2	薬の体内動態と相互作用		薬の吸収、分布、代謝、排泄の機構や相互作用、血中濃度について理解する
	3	薬効・副作用と薬品管理・医薬品に関する法律		腎機能や肝機能と中毒との関係を理解する。また、薬品管理の法的な規制についても知る。
	4	感染症治療薬	・国家試験対策を重視し、過去問の確認を繰り返すことにより、薬理学の知識を身近なものとして習得する。	抗菌薬の種類と作用点、それぞれの副作用及び対策について理解する。
	5	抗がん薬・免疫治療薬		がんの発生と抗がん剤の種類について、その作用点や副作用について理解する。免疫抑制薬の理解を深める。
	6	抗アレルギー薬・抗炎症薬		アレルギーとそれに対する薬物を理解する。炎症と抗炎症薬について知る。これらの関連疾患とその薬を知る。
	7	末梢神経系作用薬		交感神経・副交感神経、特に $\alpha$ と $\beta$ 受容体の概念とその促進・抑制薬について理解する。
	8	中枢神経系作用薬		抗てんかん薬や向精神薬の注意点、モルヒネの作用と副作用や看護とのかかわりについて理解する。
	9	心臓・血管系薬その1	・確認問題を復習のまとめとして行う。	高血圧治療薬の種類と作用点の違い、それぞれの代表的副作用を理解する。
	10	心臓・血管系薬その2		高血圧、狭心症、心不全、不整脈に対する治療薬の種類と作用点の違い、それぞれの代表的副作用を理解する。
	11	呼吸器・消化器・生殖器系薬		喘息治療薬や消化性潰瘍治療薬の種類と特徴、使用上の注意点等について知る。生殖器・泌尿器系に作用する薬剤を知る。
	12	ホルモンとビタミン皮膚及び眼科外用薬		糖尿病、甲状腺、骨粗鬆症に対する薬剤の作用と注意点を理解する。 外用剤の剤型と使い分けを知る。
	13	救急薬、漢方薬		救急の際に使用される薬の種類と注意点について理解する。漢方薬の概念と作用・副作用について理解する。
	14	消毒薬・輸液製剤看護に必要な薬の知識	消毒薬の使い方と輸液の種類と使用方法について知る。処方箋の見方などについて理解する。	
	15	試験		

◆教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の足進③ 薬理学 (医学書院)

◆参考文献

系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 (医学書院)

◆成績評価の方法 筆記試験

## シラバス

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	1年次 7月～11月		
科目名	治療論	単位数	1単位 (5単元あわせて)	時間数	30時限 (5単元あわせて)
担当講師	医師・認定看護師	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分・100点

### ◆学習目標

【診断と治療】診断・治療の概要について看護に必要な知識を習得する。

#### 【放射線療法】

1. 放射線検査、画像検査について理解する。
2. 放射線療法の原理や目的が理解でき、実際の放射線療法をイメージすることができる。
3. 放射線の人体に及ぼす影響を理解できる。

【救急法・麻酔療法】麻酔、救急処置法について理解する。

【手術療法】外科手術の意義を理解し、手術によって生体がどのように反応するか知ったうえで、必要な看護の基本を習得する。

【化学療法】がん化学療法看護の基礎知識を習得する。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	<b>【診断と治療】</b> 1. 診断・治療 2. 問診(ロールプレイ) 座る位置や角度について	講義 ロールプレイ	
	2	<b>【放射線療法】</b> 超音波検査、核医学検査	板書	
	3	1. 一般X線撮影の原理 2. CTの基本、造影剤について 3. MRIの原理、高磁場MRIの危険性 4. 血管造影とIVR	パワーポイント  ビデオ	
	4	1. 放射線療法の原理、目的・方法 2. 放射線治療の種類、実際の放射線治療 3. 放射線防護	パワーポイント	
	5	DVD視聴 どのように放射線治療が行われているかイメージが出来る	DVD	
	6	<b>【救急法・麻酔療法】</b> 1. 麻酔法 麻酔とは、麻酔の種類 2. 手術前の管理 手術中の管理(モニター)、手術後の管理、合併症など 3. 全身麻酔について 気道確保法 4. 麻酔導入法、吸入麻酔、静脈麻酔 局所麻酔について 局所麻酔薬、脊髄くも膜下麻酔／硬膜外麻酔		
	7	5. 救急処置法 BLS、ACLS、AED、BLSの実際	演習	
	8	<b>【手術療法】</b> 1. 手術療法とは 1) 外科学と手術の歴史 2) 手術療法の位置づけ 3) 治療手技としての手術 4) 手術療法の将来	講義	配布資料を読み、教科書の関連部分と連携して理解を深める。

9	2. 手術侵襲と生体の反応 1) 手術侵襲の意味 2) 侵襲に対する生体反応 3) サイトカインによる生体調節機能 4) 手術と臓器不全	講義	
10	3. 周手術期管理と術後合併症 1) 周手術期管理とチーム医療 2) 周手術期看護の基本 3) 手術後の疼痛管理 4) 術後合併症とその予防	講義	
11	【化学療法】 1. がんの基礎知識 2. 抗悪性腫瘍薬の種類と特徴 3. レジメンの構成	パワーポイント	
12	1. 抗がん剤が患者に与える影響 2. 抗がん薬の危険性 3. 暴露対策 4. 副作用(悪心・嘔吐)	パワーポイント	
13	副作用 骨髄抑制、脱毛、末梢神経障害	パワーポイント かつらやパンフレット を用いる	
14	1. 外来化学療法の実際と課題 2. 事例紹介	パワーポイント DVD	
15	全単元終了後試験		

◆教科書

系統看護学講座 別巻 医学概論 (医学書院)  
 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学(医学書院)  
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)  
 系統看護学講座 別巻 がん看護学 (医学書院)

◆参考文献

【化学療法】がん診療レジデントマニュアル第5版(医学書院)ほか

◆成績評価の方法

筆記試験

## シラバス

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	1年次 6月～10月		
科目名	疾病と治療Ⅰ（呼吸器・循環器）	単位数	1単位 (2単元あわせて)	時間数	30時限 (2単元あわせて)
担当講師	内科医師、循環器医師	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分 100点

◆学習目標

呼吸器系・循環器系疾患について、病態が人体に及ぼす影響を学び、診断・治療を理解する。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	呼吸器の構造と機能	講義	
	2	呼吸器系の症状と病態生理		
	3	呼吸機能検査・処置		
	4	疾患の理解①		
	5	疾患の理解②		
	6	疾患の理解③		
	7	疾患の理解④		
	8, 9	I. 循環器系の主要症状について ・胸痛 ・動悸 ・呼吸困難 ・浮腫 ・チアノーゼ ・失神 ・四肢の疼痛 ・ショック II. 検査・治療・処置 ①検査 心電図、X線検査、心エコー図、心臓カテーテル法、 血行動態モニタリング（肺動脈圧、肺動脈楔入圧、 心拍出量、CVP、観血的動脈圧モニタリング） 核医学検査（心筋シンチ）	講義	
	10	②内科的治療 ・一般療法 ・薬物療法 ・心臓カテーテル治療 ・カテーテルアブレーション ・ペースメーカー治療 ・外科的治療（冠動脈バイパス術）	講義	
	11, 12	III. 疾患と治療の理解 ①虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞） ②心不全 ③弁膜症 ④高血圧 :血圧の測り方、高血圧の分類、高血圧による影響、薬物療法	講義	
	13	⑤不整脈 ・興奮伝導の異常による不整脈（房室ブロック、心房細動、心房粗動、心室細動、心室粗動） ・洞機能不全症候群	講義	
	14	⑥心筋疾患、先天性心疾患、肺性心	講義	
	15	全単元終了後試験		

◆教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器（医学書院）  
 ビジュアル微生物学 第2版（ヌーヴェルヒロカワ）  
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器（医学書院）

◆参考文献

◆成績評価の方法 筆記試験

## シラバス

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	1年次 6月～9月		
科目名	疾病と治療Ⅱ (消化器・腎泌尿器)	単位数	1単位 (3単元あわせて)	時間数	30 時限 (3単元あわせて)
担当講師	・外科医師・歯科口腔外科医師・泌尿器科医師	講義時限	28 時限	試験時間・配点	90分 100点

### ◆学習目標

1. 消化器疾患でおこる症状および診断のための検査、治療を理解する。
2. 代表的な消化器疾患の症状、診断、治療について理解する。
3. 腎・泌尿器科系疾患の病態および検査・治療等に関して理解する。
4. 歯・口腔科系疾患について、病態が人体に及ぼす影響を学び、診断・治療を理解する。

回	授業内容	授業方法	学習課題
1	<b>消化器に関する小テスト (消化管の解剖)</b> 消化器疾患でおこる症状・徴候と病態生理： 嚥下困難・胸やけ・嘔吐・腹痛・吐下血・下痢・便秘・腹部膨満・食欲不振・腹水・黄疸・意識障害	講義	消化器の解剖をきちんと把握する。 左記症状の原因や機序を理解し、説明出来るようにする。
2	<b>消化器疾患の検査①</b> 身体診察・糞便検査・肝機能検査・栄養状態のアセスメント・膵外分泌機能検査・超音波検査・内視鏡検査・肝生検他（	講義	各検査の目的、内容、注意点を理解する。
3	<b>消化器疾患の検査②/消化器疾患の治療</b> 放射線検査・X線 CT・MRI・肝シンチ・PET 薬物療法・食事療法・手術療法・放射線療法	講義	各検査の目的、内容、注意点を理解する。各治療法のメリット・デメリットを把握する
4	<b>疾患の理解① 食道疾患、胃・十二指腸疾患</b> 食道がん・食道アカラシア・胃食道逆流症・機能性胃腸症・胃炎・胃十二指腸潰瘍・胃がん	講義	各疾患の病態生理を把握する
5	<b>疾患の理解② 腸および腹膜疾患</b> 過敏性腸症候群・腸炎・腹膜炎・虫垂炎・ヘルニア・イレウス・寄生虫・消化管憩室・腸管ポリープ・大腸癌・肛門疾患	講義	
6	<b>疾患の理解③ 肝胆膵の疾患・急性腹症・腹部外傷</b> 肝炎・肝硬変・門脈圧亢進症・肝不全・肝がん・肝外傷・胆石症・急性胆嚢炎・胆管炎・胆管がん・胆嚢がん・胆嚢ポリープ・肝寄生虫疾患・膵炎・膵がん・急性腹症・腹部外傷	講義	
7	<b>まとめ</b> 消化器疾患の総まとめ	講義・小テスト	学習した疾患の理解度を把握する
8	症状とその病態生理 尿の異常・排尿症状・水/電解質異常・循環器系の異常など	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 腎臓の働きについて復習しておくこと</li> <li>➢ 講義前に教科書を通読しておくこと(以下同様)</li> </ul>
9	検査と治療・処置 診断法、主な検査・レントゲン検査・内視鏡など	講義	
10	疾患の理解 腎不全、慢性腎臓病など		
11	感染症、尿路通過障害、尿路機能障害、尿失禁		



	回	授業内容	授業方法	学習課題
	12	腎尿路外傷・異物、尿路結石症		
	13	尿路性器の腫瘍、先天異常など		
授 業 計 画	14	1. 歯科の一般知識 ①歯の構造 ②歯式 ③う蝕と歯周疾患 ④口腔ケア  2. 口腔外科疾患 ①炎症 ②嚢胞 ③外傷 ④顎変性症 ⑤腫瘍	講義	1. 一般歯科の知識を得る 2. 口腔外科の疾患と治療法を知る  以上により看護における口腔管理を学習する。
	15	全単元終了後試験		
<b>◆教科書</b> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器（医学書院） 全単元終了後に試験 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑮ 歯・口腔（医学書院）				
<b>◆参考文献</b> 病気がみえる vol.1 消化器 第4版（メディックメディア） 適宜資料の配布				
<b>◆成績評価の方法</b> 筆記試験				

## シラバス

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	1年次 6月～9月		
科目名	疾病と治療Ⅲ(運動器・脳神経)	単位数	1単位 (2単元あわせて)	時間数	30 時限 (2単元あわせて)
担当講師	整形外科医師、脳神経外科医師、 神経内科医師	講義時限	28 時限	試験時間・配点	90分 100点

◆学習目標

- ①運動器疾患の基本的な治療概念について、知識を習得する。
- ②脳神経系における内科的・外科的疾患について検査・診断・治療を理解する。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	上肢の疾病と治療①	講義	
	2	上肢の疾病と治療②	講義	
	3	脊柱の疾病と治療①	講義	
	4	脊柱の疾病と治療②	講義	
	5	下肢の疾病と治療①	講義	
	6	下肢の疾病と治療②	講義	
	7	1. 主な症状とその病態生理 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 脳死</li> <li>➤ 反射性運動の障害(瞳孔異常、嚥下障害、排泄障害、呼吸障害)</li> <li>➤ 頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア</li> <li>➤ 髄膜刺激症状</li> <li>➤ 頭痛</li> </ul> 2. 検査 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ CT</li> <li>➤ MRI</li> <li>➤ 脳血管撮影</li> <li>➤ SPECT/PET</li> <li>➤ 脳脊髄液検査</li> </ul> 3. 治療・処置 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 治療・処置の詳細は疾患の各論で</li> </ul>	講義(スライド使用)	
	8	4. 脳脊髄性疾患(疾患各論) <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 脳血管障害2(脳梗塞など)</li> </ul>		
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 脳血管障害 1(くも膜下出血・脳内出血)</li> </ul>		
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 脳腫瘍</li> <li>➤ 脳感染症</li> <li>➤ てんかん</li> <li>➤ 顔面痙攣・三叉神経痛</li> <li>➤ 頭部外傷</li> <li>➤ 水頭症</li> <li>➤ 脊髄疾患</li> </ul>		
	11	神経疾患の症状 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大脳高次機能障害</li> <li>・運動機能の障害</li> <li>・言語障害</li> </ul>		
	12	パーキンソン病の検査・診断・治療		

	回	授業内容	授業方法	学習課題
	13	多発性硬化症の検査・診断・治療		
	14	運動ニューロンに関する疾患 筋委縮性側索硬化症 (ALS)、 ギランバレー症候群など		
	15	全単元終了後試験		
◆教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 (医学書院)				
◆参考文献 脳神経外科学 金芳堂 クリッピング・バイパス・CEA の論理と技術(メディカ出版)				
◆成績評価の方法 筆記試験				

## シラバス

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	1年次 11月～2月		
科目名	疾病と治療Ⅳ <small>(血液・造血器、免疫・アレルギー、内分泌・代謝)</small>	単位数	1単位 <small>(2単元あわせて)</small>	時間数	30時限 <small>(2単元あわせて)</small>
担当講師	内科医師	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分 100点

### ◆学習目標

1. 血液造血の基礎知識を元に、血液疾患を理解する。
2. 免疫機能の低下からくる膠原病の病態を理解する。
3. 免疫・内分泌疾患について、病態が人体に及ぼす影響を学び、診断・治療を理解する。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	第1回～ 第4回	血液細胞の分化 各血液細胞の働き 血液細胞の分化からみた白血病の分類と治療 骨髄移植 その他の血液悪性腫瘍の理解 (悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など) 出血性疾患、凝固異常症の理解	講義	
	第5回～ 第8回	自己免疫とは何か 自己免疫疾患の発生機序 自己免疫と膠原病 膠原病の症状 膠原病の検査 膠原病の治療 膠原病各論 (関節リウマチ、SLE、SSC、PM・DM、MCTD、 シェーングレーン症候群、血管炎症症候群、 抗リン脂質抗体症候群)	講義	
	9	視床下部—下垂体(前葉、後葉)疾患	講義	
	10	甲状腺、副甲状腺疾患	講義	
	11	副腎疾患	講義	
	12	糖尿病	講義	
	13	その他の疾患	講義	
	14	総括	講義	
	15	全単元終了後試験		

### ◆教科書

- 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器 (医学書院)  
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 (医学書院)  
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー・膠原病・感染症 (医学書院)

### ◆参考文献

◆成績評価の方法 筆記試験

## シラバス

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	1年次 9月～2月		
科目名	疾病と治療Ⅴ (感覚器・女性生殖器)	単位数	1単位 (5単元あわせて)	時間数	30時限 (5単元あわせて)
担当講師	婦人科医師、眼科医師 皮膚科医師、乳がん看護認定看護師	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分 100点

◆学習目標

1. 感覚器系(耳・鼻・咽頭、眼)、女性生殖器系、触覚器系の構造と機能を理解する。
2. 感覚器系(耳・鼻・咽頭、眼)、女性生殖器系、触覚器系に関して、主な症状や病態、診察・治療、疾患について理解する。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	成人看護学⑨ 女性生殖器 第3章 症状とその病態生理	講義	
	2	成人看護学⑨ 女性生殖器 第4章 A. 診察・検査	講義	
	3	B. 治療・処置	講義	
	4	成人看護学⑨ 女性生殖器 第5章 疾患の理解 A. 性分化疾患 B. 臓器別疾患 外陰、膣、子宮、卵管、卵巣、 骨盤炎症性疾患	講義	
	5	C. 機能的疾患 月経異常、更年期障害、不妊症、 不育症、感染症	講義	
	6	1. 乳がんの疫学 2. 乳がんの特徴 3. 乳がんの発生機序 4. 乳がんの種類 5. 乳がんの診断 6. 乳がん検診・自己検診 7. 乳腺疾患	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 乳がんの基本的知識の習得</li> <li>➤ 乳がんの診断が理解できる</li> <li>➤ 乳がん自己検診法の習得</li> </ul>
	7	1. 乳がんの治療 2. 手術 3. 薬物療法 4. 放射線療法 5. 事例紹介	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 乳がんの治療が理解できる</li> <li>➤ 事例を通し乳がんの治療を考察できる</li> </ul>
	8	耳の疾患	講義	
	9	鼻・咽喉頭疾患	講義	
	10	I. 視覚器の解剖・生理 II. 眼科の特徴(検査、治療)	講義	
	11	III. 視覚器の疾患 緑内障 白内障	講義	

	回	授業内容	授業方法	学習課題
		網膜剥離 糖尿病性網膜症		
	12	触角器系の検査・治療	講義	
	13	皮膚の疾患 熱傷、凍傷、母斑、腫瘍など	講義	
	14	皮膚の疾患 感染症など	講義	
	15	全単元終了後試験		

◆教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器（医学書院）  
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑫ 皮膚（医学書院）  
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑬ 眼（医学書院）  
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉（医学書院）

◆参考文献

がん看護セレクション 乳がん患者ケア（学研）  
 患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2014年版 金原出版株式会社  
 科学的根拠に基づく 乳癌診療ガイドライン 1治療編 2疫学・診断編 2015年版 金原出版株式会社  
 臨床・病理 乳癌取扱い規約 2008年9月第16版 金原出版株式会社

◆成績評価の方法 筆記試験

## シラバス

分野	専門基礎分野	開講年次	1年次6～12月		
科目名 (单元)	臨床栄養	単位数	1単位	時間数	30時間
担当講師	大学講師（14時限） 管理栄養士（14時限）	講義時間	28時間	試験時間 配点	90分 100点
◆目的 人間にとって必要な栄養素や栄養摂取の意義を理解し、健康の保持、疾病の回復のための基礎的な原理、栄養食事療法及びチームの連携について理解する。					
回数	学習内容	学習課題	備考		
第1回	人間栄養学と看護 栄養を学ぶということ	各回の授業ごとに次回の授業内容を含んだ問題を配布する。特に集めて採点することは考えていないが、定期試験に類似する問題を出題するので、内容をよく理解しておくこと。解答は授業中、或いは解答用紙を配布することで対応する。栄養素の構造は、生化学による理解が必要なので、生化学関連の授業もしっかり聴講すること。	大学講師		
第2回	栄養とは、栄養素と人間の栄養状態、栄養学の歴史 栄養素の種類とはたらき 糖質：糖質の種類及びはたらき 脂質：脂質の種類及びはたらき、コレステロールのはたらき タンパク質：タンパク質、アミノ酸の種類及びはたらき		大学講師		
第3回	栄養素の種類とはたらき タンパク質：タンパク質の栄養価 ビタミン：ビタミンの種類、脂溶性ビタミンのはたらき		大学講師		
第4回	栄養素の種類とはたらき ビタミン：水溶性ビタミンのはたらき ミネラル：ミネラルの種類及びはたらき		大学講師		
第5回	食物の消化と栄養素の吸収・代謝 食物の消化、栄養素の吸収、血しょう成分と栄養素		大学講師		
第6回	食物の消化と栄養素の吸収・代謝 栄養素の代謝、九州、代謝産物の排泄		大学講師		
第7回	エネルギー代謝 食品のエネルギー、体内のエネルギー、エネルギー代謝の測定、エネルギー消費		大学講師		
第8回	1 栄養食事療法とは 栄養食事療法の概要、医療・福祉の場における栄養食事療法 2 栄養食事療法の実際 病人食の分類と特徴、栄養補給法、栄養アセスメントの基本		管理栄養士		
第9回	3 症状を持ち患者の栄養食事療法 摂食・嚥下障害 4 呼吸器疾患患者の栄養食事療法 肺炎、急性呼吸不全、慢性閉塞性肺疾患		管理栄養士		
回数	学習内容	学習課題	備考		

第10回	5 循環器疾患患者の栄養食事療法 高血圧症、動脈硬化症、虚血性心疾患、うっ血性心不全、脳血管障害 6 消化器疾患患者の栄養食事療法 胃炎、胃・十二指腸潰瘍、機能性ディスペプシア、過敏性腸症候群、クローン病、短腸症候群、人工肛門増設患者、潰瘍性大腸炎、吸収不良症候群、タンパク漏出症候群、便秘、下痢、慢性肝炎、非アルコール性脂肪性肝炎、肝硬変症、脂肪肝、膵炎、胆石症・胆嚢炎、胃食道逆流症		管理栄養士
第11回	7 腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法 腎疾患、泌尿器疾患 8 栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法 肥満、エネルギー・タンパク質欠乏症、ビタミン・ミネラル欠乏症、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症・痛風 9 血縁疾患患者の栄養食事療法 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、白血病		管理栄養士
第12回	10 熱傷・褥瘡の栄養食事療法 熱傷、褥瘡 11 精神・神経疾患患者の栄養食事療法 摂食障害、アルコール依存症 12 術前・術後の栄養管理 術前・術後の栄養管理の原則、胃の摘出手術、大腸がんの手術、食管がんの手術、循環器の手術		管理栄養士
第13回	13 がん患者の栄養食事療法 がんの発症に関する栄養食事療法、がん患者と栄養、がん治療における栄養食事療法 14 妊産婦・更年期の栄養食事療法 妊産婦の栄養と食事、更年期の栄養と食事		管理栄養士
第14回	15 小児の栄養食事療法 小児の栄養管理の基本、低出生体重児、小児肥満、先天性代謝異常、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、周産期嘔吐症、乳児下痢症 16 高齢者の栄養食事療法 高齢者の栄養管理の基本、骨粗鬆症		管理栄養士
第15回	終了試験		
◆使用教科書 ①系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能③ 栄養学 (医学書院) ②系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 (医学書院)			
◆成績評価の方法 筆記試験			



## シラバス

科目分類	専門基礎分野	開講年次・時期	2年次 6月～9月		
科目名 (単元)	リハビリテーション	単位数 (7単元合わせて)	1単位	時間数	30時限 (7単元合わせて)
担当講師	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	講義時限	28時限	試験時間・配点	90分 100点

◆学習目標

リハビリテーションの基礎を学び、障害の持つ人々の生活支援を理解する。

	回	授業内容	授業方法	学習課題
授 業 計 画	1	<b>【概念】</b> 1. リハビリテーションとは何か ①定義 ②目的 ③実際の事例で考える 2. 障害発生の時期から見たリハビリテーション ①急性期 ②回復期 ③維持期	講義(P.P ビデオ)	リハビリテーションの概要を知る イメージする
	2	1. ICF の概念で考える ①健康状態 ②生活機能 ③背景因子 2. 環境因子としての福祉用具	講義(P.P)	アセスメントツールとしてのICFを知る 福祉用具の概要を知る
	3	<b>【理学療法】</b> 1. リハビリテーションと理学療法 理学療法とは？ 理学療法士とは？ 当院での理学療法士の働き方 当院でのナースとの連携について 理学療法士から求めるナース像	講義	当院の現状理解と、用語・概念の理解
	4	2. 日常起こり得るリハビリテーション 松葉杖・一本杖の合わせ方と歩き方 関節可動域の測定 筋力強化訓練の指導 階段の歩行方法 効果的な移乗方法 胸郭の可動域練習 リラクゼーション	講義・実技	日常出くわすであろう、リハビリ分野の対応についての話し合い。それらの実習とプレゼン
	5	3. ケース検討 ケースの問題点を抽出 リハビリスタッフとの情報共有	講義・グループ討議	リハビリスタッフとの連携と情報共有の方法を、実例を使って討議・発表
	6	<b>【作業療法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業療法とは</li> <li>● 作業療法士が捉える「作業」とは</li> <li>● ICF の実践例</li> <li>● 作業療法の実際                              評価⇒目標設定⇒訓練⇒終了までの流れ</li> <li>● 他職種協業の重要性</li> <li>● ニーズの把握</li> <li>● 生活の再構築について</li> </ul>	講義 教科書	
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 在宅に向けた支援</li> <li>● 作業療法の実際 疾病・病期による違い</li> <li>● 認知症の評価 HDS-R と MMSE</li> <li>● 高次脳機能障害</li> <li>● ADL 評価 Barthel index と FIM</li> <li>● ADL の具体的支援                              自助具・福祉用具の活用を中心に</li> </ul>	資料提示 教科書	

8	<b>【言語療法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 言語聴覚士(ST)とは</li> <li>● 対象疾患</li> <li>● コミュニケーション</li> <li>● 失語症 評価法、タイプ分類、訓練法 コミュニケーション方法</li> <li>● 構音障害 評価法、訓練法、コミュニケーション方法</li> </ul>	講義	
9	摂食・嚥下障害について <ul style="list-style-type: none"> <li>● メカニズム</li> <li>● 評価法</li> <li>● 訓練法</li> <li>● 口腔ケア</li> <li>● 実技(摂食嚥下障害体験、頸部聴診法)</li> </ul>	講義 実技	
10	<b>【呼吸・循環】</b> <p>I. 呼吸器疾患のリハビリテーションについて</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器疾患の基礎             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 呼吸器系の解剖</li> </ol> </li> <li>2. 呼吸器疾患に対する理学療法             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション</li> <li>2) 肺炎予防のための排痰法について</li> </ol> </li> <li>3. 各種排痰法について             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 体位排痰法 2) 徒手的排痰法</li> <li>3) 咳の介助方法</li> </ol> </li> </ol> <p>II. 循環器疾患のリハビリテーションについて</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 循環器疾患の基礎             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心臓の解剖など 2) 心不全について</li> <li>3) 虚血性心疾患について</li> </ol> </li> <li>2. 心不全のリハプログラム             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心不全のプログラム 2) 運動の中止基準</li> </ol> </li> </ol>	講義	
11	<b>【緩和医療】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. がんとリハビリの関係</li> <li>2. 緩和ケアのリハビリについて             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 維持的アプローチの実際</li> <li>2) 緩和的アプローチの実際                 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 呼吸困難感 ② 浮腫 ③ 倦怠感</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>3. 事例紹介</li> </ol>	講義 (パワーポイントで 作成したスライド 使用)	
12	<b>【精神障害とリハビリ】</b> 地域精神保健福祉の概要とリハビリテーションの基本的学習	講義	復権緒理解など
13	SST の基本体感、GW の基本体感、 当事者のメッセージ	当事者スピーカー GW 等体感	体感体験
14	精神科リハビリの確認、まとめ	まとめ講義等	テスト準備
15	全単元終了後 筆記試験		
<b>◆教科書</b> ナーシンググラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護 (メディカ出版) <b>【精神障害とリハビリ】新体系 看護学全書 精神看護② 精神障害をもつ人の看護(メヂカルフレンド社)</b>			
<b>◆参考文献</b> 講義中に適宜提示する			
<b>◆成績評価の方法</b> 筆記試験			